

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	02-02-03-01
事務事業名	精神疾病患者通院医療費給付事業		
		根拠法令・要綱等	
事業開始年度	昭和51年4月1日～		
大項目 基本目標	健康でやさしきあふれるまちづくり	問合先	保健課
中項目 基本施策	健やかで生き生きしたまちづくり	職・氏名	健康係長・白麗由美子
小項目 施策	精神保健	電話	64-1820

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	市内に住所を有し国民健康保険法の規定による被保険者である精神障害者で、障害者自立支援法の規定による自立支援医療費の支給を受けている者。
目的 (何のために)	精神障害者が通院を中断することなく、適切な医療を受けられるように医療費支給を行う。
行政活動 (どのような方法で)	医療費の給付を受けることを希望する人からの給付申請により、国保連合会から送付される障害者自立支援法の負担にかかる費用明細表をもとに障害者自立支援法の規定による自立支援医療に要する費用のうちの自己負担分を、4か月分まとめて年3回、本人名義の口座に振り込む。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	通院の医療費を支援することで治療の中断や症状の重症化を防止することができ、精神障害者の自立した生活を保持することができる。

事業の実績						
活動実績	実施項目					
	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績		
	精神疾病患者通院医療費支給額	円	1,773,401	3,078,133	2,900,107	
	精神疾病患者通院医療費支給対象者	人	1,667	1,626	1,621	
	精神疾病患者通院医療費支給人数	人	422	425	457	
	精神疾病患者通院医療費支給延人数	人	1,428	1,455	1,618	
	事業費	直接事業費	千円	1,769	3,078	2,900
		人件費	千円	3,091	1,305	1,266
事業費計			4,860	4,383	4,166	
財源	国県支出金					
	受益者負担	千円				
	一般財源		4,860	4,383	4,166	
必要人員	人	0.51	0.25	0.23		
結果指標	結果指標量					
	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績		
	精神疾病患者通院医療費支給延べ人数	人	422	425	457	
	結果指標量					
	対前年比	%	-	100.7%	107.5%	
活動コスト	円	4,860,000	4,383,000	4,166,000		
単位当たりコスト	円	11,517	10,313	9,116		

事業の成果			
成果指標名	支給率	式又は説明	精神疾病患者通院医療費支給延人数 ÷ 対象者延人数 × 100
		17年度	18年度
成果指標量	85.7	89.5	99.8
対前年比	104.43%		111.51%
到達目標値	100.0	到達目標年度	平成20年度

事業の目的、対象、内容を考えてから目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価 <A-E>	B
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	備前市精神障害者医療費給付条例の規定により本市が事業を実施することは妥当である。また増加傾向にある精神疾患の治療継続を支援することにより、地域での自立した生活が保持されることにつながり、必要な事業である。平成20年4月より後期高齢者医療制度の実施により、現在の対象者が後期高齢者医療に加入する場合対象外となることから、対象を見直す必要がある。後期高齢者医療制度に加入する精神障害者も対象としていく。
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
対象	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
行政活動	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
事業の意図する成果	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
市の関与	<input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
コスト	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
効率性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを削減することは困難		
手	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
職	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求め職場内で改善に努めている	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである		
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
有効性の評価	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	課題認識	対象者からの申請に基づき、年3回、4か月分ずつ医療費を償還給付している。支給人数が増加傾向にあり、事務処理が煩雑であるため、引き続き事務の効率化の検討が必要である。
	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成20年度の状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	平成20年4月より対象者を見直し、国民健康保険と後期高齢者医療制度加入者を対象として実施している。後期高齢者についてはシステム上、国民健康保険加入者と同じ申請方法とすることが困難なため、診療月ごとに病院で自己負担額を記入したものを市に提出していただき、年3回、4か月分ずつ償還給付する。
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で真正・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量 460人	結果指標量
結果指標量	100.0	結果指標量

総合評価		評価区分 <A-E>	B
精神疾患の治療は継続的な通院と服薬が必要である。制度利用により精神疾患の治療が継続され、治療の中断や症状の重症化を防止することができ、精神障害者の自立した生活の保持につなげていくことができる。新規対象者や継続受診について本事業を通じて把握することもできているため、対象者にとって利用しやすい制度とすることを念頭に置きながら、事務の効率化についても検討していくことが必要である。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 平成20年度で真正・完了

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	申請方法について検討し、対象者への確実な医療費の給付を行うため、事務処理の効率化を図る。	平成21年度	人件費の削減と確実な医療費の支給ができる。